

書塾の仲間たち

第 241 回

くんぼくかい 薰墨会 (秋田県秋田市)



●書塾からひとこと●

「薰墨会」は、墨のかおりに包まれながら、「書写（生活の中の書）」（小学生～大人）と「書道（書道史と臨書）」（高校生～大人）を楽ししく伸び伸び、それぞれの目的に応じて書に親しむ仲間が集まつた会です。稽古は、秋田県秋田市の秋田カルチャースクールで月2回行っています。遠方のため来ることができない方は、通信添削で取り組んでいます。

私自身、子どもの頃に月刊『書写書道』で毎月の課題に取り組んでいました。全日本書初め大展覧会に参加し、授賞式に出席するこ

とや、書に励んでいる全国各地の方々の作品を拝見することが何よりも楽しみでした。日本武道館で太鼓の音で始まる席書大会では、緊迫した空気の中、日頃の練習の成果を出すべく平常心で筆を運ぶ。この経験は人生の大きな糧になつたと思ひます。

その後、大学・大学院で書を学びました。修了後は地元に戻り、高校で教員生活を送りながら作品制作の日々を送りました。現在は、書の楽しさを幅広い世代に広めたい気持ちもあり、秋田カルチャースクールで月刊『書写書道』を教材に書に親しんでいます。貴誌は、古典の詳細な解説や各書体の手本、「まんがしゅうじ君のことわざ・熟語ランド」など、幼児から大人までを対象とした万能教材だと思います。

近年、教育現場では書写書道の授業が減少の一途です。文字の変遷や、平仮名の成立など、自分たちが使っている文字に対して興味を持ち、知ることは大切なことだと思います。また古典の臨書を通して三千年以上にわたる書の歴史を知り、確かな書を書く若い世代が増えることを、心より願っております。

薰墨会

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

長沢
ながさわ
かおり

わたしのまわりのお友だちは、字がじょうずです。お友だちが書くきれいな字を見て、私もじょうずになりたいと思っていました。だから、二年生になった時になかよしのお友だちの家でこうひつ教室をはじめると聞いて、お母さんといっしょにすぐにならいたいと思いました。

教室には、ようち園からのお友だちやお友だちのお母さんたちもいます。字の書き方を話したり、おかげこの後でいっしょに遊んだりするのが樂しいです。

おかげこでは、まず、せすじをのばしてすわります。目をとじてしづかにしんこきゅうをして氣をもちをおつかせます。つぎに、えんぴつを正しくもって、お手本の字をよく見てから書きはじめます。とくに、書きじゅんやトメ、ハネ、ハライに気をつけます。そしてうまく書けたと思つたら先生に見せに行きます。

字がうまくなるためには気をつけなければならないことがたくさんあります。字のなりたちや形よく書くための方ほうやきまりなどを考えながら一文字づつていねいに、しゅう中して書くのはとても大へんでつかれます。

わたしは右はらいと線を上から下にまつすぐ書くことががてで、何回も書き直しと言われて、イヤになつた時もありました。でも、だんだんと字がうまくなつてきて、先生やお母さんにはめられることが多くなりました。ほめられると、もっとがんばろうとやる気が出でります。

学校の書きそめでだいひょうになつたと知つた時は、本当にうれしくて、三年生からは学校で毛ひつがはじまります。これからは、こうひつもひつも、りょう方がんばります。

わたしのまわりのお友だちは、字がじょうずです。お友だちが書くきれいな字を見て、私もじょうずになりたいと思っていました。だから、二年生になった時になかよしのお友だちの家でこうひつ教室をはじめると聞いて、お母さんといっしょにすぐにならいたいと思いました。

教室には、ようち園からのお友だちやお友だちのお母さんたちもいます。字の書き方を話したり、おかげこの後でいっしょに遊んだりするのが樂しいです。

おかげこでは、まず、せすじをのばしてすわります。目をとじてしづかにしんこきゅうをして氣をもちをおつかせます。つぎに、えんぴつを正しくもって、お手本の字をよく見てから書きはじめます。とくに、書きじゅんやトメ、ハネ、ハライに気をつけます。そしてうまく書けたと思つたら先生に見せに行きます。

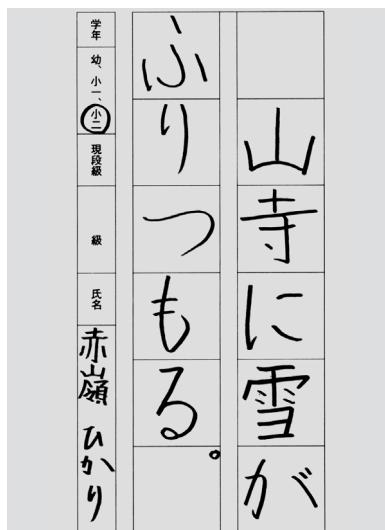
字がうまくなるためには気をつけなければならないことがたくさんあります。字のなりたちや形よく書くための方ほうやきまりなどを考えながら一文字づつていねいに、しゅう中して書くのはとても大へんでつかれます。

わたしは右はらいと線を上から下にまつすぐ書くことががてで、何回も書き直しと言われて、イヤになつた時もありました。でも、だんだんと字がうまくなつてきて、先生やお母さんにはめられすることが多くなりました。ほめられると、もっとがんばろうとやる気が出でります。

学校の書きそめでだいひょうになつたと知つた時は、本当にうれしくて、三年生からは学校で毛ひつがはじまります。これからは、こうひつもひつも、りょう方がんばります。

こうひつも毛ひつもりよう方がんばろうと思ひます

葛飾区立東柴又小学校二年 赤嶺 ひかり
あかみね



私と書写書道 第241回

わたしは、字をきれいに書けるようになりたいと思い、こうひつ教室に通いはじめました。お教室にはきれいな字を書くお姉さんがいて、そのお姉さんの字を見た時にそれまで何となく書いていた字をもつと上手に書けるようになりたいと、いう目ひょうができました。

ならないはじめると、字のなりたちを考えて形をととのえて書くことや、かん字とひらがなの大きさのバランスなど、知らないことがいろいろあっておどろきました。一文字ひと文字ていねいに書いても全体を見ると中心がずれたり、字とわくの線がくつついでいたり、なかなかうまく書けずかなしくなる時もあります。でも、わたしが通うお教室ではお母さんもいっしょにれんしゅうをしているので「これはこうだよね。」と、かくにんしながら書きます。すると、だんだんととのつてきて、自分でもいいなと思える字が書けます。先生からもたくさんほめてもらえて「やった！」という気持ちになります。

「書写書道」の写真版にのつた時はとてもうれしかったです。いただいたコメントをわすれず、これからもがんばろうと思ひました。学校で書きそめの代表になれた時も、がんばってれんしゅうしてよかつたと心から思いました。字が上手だねとお友達や学校の先生から言われることもふえてきました。がんばつていることをほめてもらえるとはげみになります。

「短い線ほどていねいに、心をこめて。」。さい近・福島光雲先生に言われたことばです。形やとめ、はね、ハライに気をとられ、線やでんやまるの時に気をぬいてしまうことが多いので気をつけたいです。さい後の線までピシッと書けるとともにきれいに見えるので、えんぴつをもつて用紙を前にした時には心をおつかせてしゅう中して書くように心がけています。

葛飾区立住吉小学校二年 山本 薫
やまもと かおる

